ドクター・ワッシー

診察室 ざっくばらん

新型コロナでも髄膜炎

不安で右往左往しないで

耳鼻科の先生たちは、この頃、とても困っているという。「コロナ肺炎では、臭いが分からない、味がしないという症状が出るかも」と報道された。以来、普通の風邪の患者さんでも、「私もコロナ？」、「僕も」と受診するらしい。

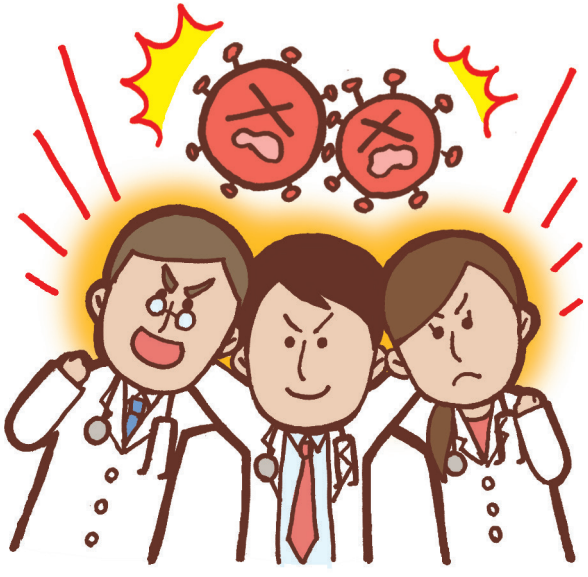
臭いが分からないというのは、脳神経のひとつ、嗅神経が働かないからだ。でも、味がしないというのは、コーヒーやワインの香りが分からないから味がないと思うだけではなかろうか。

嗅覚障害は、鼻の奥にある嗅神経の問題。味覚障害には、口の中に分布する顔面神経、舌咽神経などが関係する。鼻と口は近いから、同時にそれらの神経がヘンになったというのだろうか。もしそうなら、鼻の近くにある頭も危ない。と思っていた。ら、なんと、コロナはすさまじい。

山梨県の24歳男性は、ひどい副鼻腔炎に髄膜炎も併発していた。髄膜炎とは、脳の表面にある髄膜が炎症を起こすものだ。発熱や頭痛、項部硬直（首筋が張る）がみられる。けいれんや意識障害を起こすこともある。その男性の脳脊髄液はPCR陽性だったというから、髄膜炎は新型コロナウイルスによるものだろう。もっとも、これが国内で初めての報告例である。でも、風邪の原因となる従来のコロナウイルスが、稀に髄膜炎をひきおこすことがある。だから、新型コロナウイルスが、髄膜炎を起こしも不思議ではない。この先、同様の報告例が増えると考えられる。

と聞いて、なんか熱っぽい。頭もちょっと痛い。そういえば、以前から肩や首筋も凝るという患者さん。まさか、コロナでは？と、クリニックへ来ることはないだろう。言っておくけど、臭いがしないとか、頭が痛いぐらいではPCR検査はしません。不安にかられて右往左往しては、コロナウイルスを広げる元になります。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）



イラスト・野畑桃花